

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月21日
函館市立戸倉中学校

1 本年度の重点教育目標

未来を生き抜く力の育成 ～社会的な自立の時に向けて～

2 本年度の取組の重点

①「確かな学力」の育成 ②「豊かな心」の育成 ③「健康でたくましい心と体」の育成
④ 育てる生徒指導の推進 ⑤ 地域と共にある学校づくりの推進 ⑥ 三気に満ちた教職員組織の構築と推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学力	学校での授業改善によって「わかった」と実感できたり、「対話や表現することが楽しい」と実感できているか。	b	内容の焦点化と目標を明確にした授業改善によって基礎学力を高め、生徒の主体的な学習を促す。	A	B	「生徒の主体的な学習」について、具体的なイメージを共有できるようにする必要がある。
	I C T機器や一人一台端末の効果的な活用により、子どもの確かな学びにつなげることができたか。	b	機器や端末の効果的な活用方法についての研修に組織的に取り組み、確かな学びにつなげていく。	A	A	効果的な活用を苦手とする教員を対象に手厚いサポートをすることでの底上げも大切である。
②豊かな心	「考え議論する」道徳の授業や学級活動の時間を通して思いやりの心を育むことができたか。	b	道徳の授業を計画的に進めるとともに、すべての教育活動の中で道徳教育の一層の充実を図っていく。	A	A	学校生活全てが心を育むことにつながっている自覚を相互に持つことが大切だと思う。
	学校の適切な情報モラル教育により、I C T機器やS N Sなどの望ましい利用につながっているか。	c	利用に関して家庭との連携を重視するとともに、情報モラル教室の早期実施により改善につなげる。	A	B	情報モラル教室を実施しても改善できる課題ではなく、日々の学校生活で取り組む継続性も必要。
③体力向上	学校の様々な行事を経験することにより、子どもの心身の成長につながっているか。	a		A		
	学校の様々な取組により、子どもの安全で健康な生活や体力の向上につなげることができたか。	a		A		
④生徒指導	生徒の自治的な活動や共感的な指導などの取組により、子どもが楽しく落ち着いた学校生活を送ることができ	a		A		
⑤地域連携	学校がどのような生徒の育成を目指しているか、学校運営協議会や校区の小学校、地域の方々と共有されている	a		A		
⑥教職員組織	教職員の心理的安全性の確保のもと、協働・共汗の姿勢で教育活動に立ち向かう職員集団を目指すことができ	b	職員同士が尊重し合い、失敗を批判しない雰囲気を醸成しウェルビーイングな職場環境を構築する。	A	A	失敗を批判せずに何をやるのかを明確にしておく必要がある。ウェルビーイングは大切である。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。